

○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

修正前

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト(R2)	中期経営計画(H29~R3)		R2目標設定の考え方(数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項	
						実績[見込]			R2目標	最終年度目標			
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 (「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」)		%	10	89	88	89.3	10	-	60	R1の実績値を目標値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。	
						89.3							
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数(中期計画期間中)		件	5	15	15	15	5	15	累計75	中期経営計画のR2目標値・寄付額30,000千円、1人当たり助成額2,000千円	審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。	
	岸本基金研究助成応募件数		件	10	234	250 ×196	215	10	-	-	H30、R1の2か年実績の平均値を目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。	
	産学連携競争的資金獲得件数		件	15	5	6	6	15	-	-	H30、R1の2か年実績の平均値を上回る目標値に設定	AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。	
						6							
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	10	690	740 ×730	↓490	10	-	800	感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、会場を変更の上、1講演の参加者数を70人とし、7回分を見込んだ。	引き続き新規のクラブ会員獲得を図るとともに断新で魅力的な講演テーマ、講師の選定を行い、積極的に参加者の募集を行う。	
	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	5	10,491	12,000 ×9,986	10,000	5	-	13,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止による事業中止に伴い、大きく減少した直近の実績を踏まえ、R1実績とほぼ同数の目標値を設定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。	
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト(R2)	中期経営計画(H29~R3)		R2目標設定の考え方(数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項	
						実績[見込]			R2目標	最終年度目標			
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1	0.9	↓0.85	10	0.9	0.9	0.9	長期安定を基本に効率的・効果的な資金運用に努めるが、大幅な豪ドル安が続いていることを踏まえ、目標から5百万円減0.85億円の運用益を目指す。	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
						0.92							
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	3,680	3,670	3,660	5	-	-	総労働時間のさらなる縮減を目指す。	事務事業の効率化により、常勤職員(役員・管理職、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。	
						[3,663]							

修正後

法人名

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト(R2)	中期経営計画(H29~R3)		R2目標設定の考え方(数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			R2目標	最終年度目標		
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 (「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」)		%	10	89	88 89.3	89.3	10	-	60	R1の実績値を目標値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数(中期計画期間中)		件	5	15	15 15	15	5	15	累計75	中期経営計画のR2目標値・寄付額30,000千円、1人当たり助成額2,000千円	審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。
	岸本基金研究助成応募件数		件	10	234	250 ×196	215	10	-	-	H30、R1の2か年実績の平均値を目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	産学連携競争的資金獲得件数		件	15	5	6 6	6	15	-	-	H30、R1の2か年実績の平均値を上回る目標値に設定	AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。
	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	10	690	740 ×730	↓490	10	-	800	感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、会場を変更の上、1講演の参加者数を70人とし、7回分を見込んだ。	引き続き新規のクラブ会員獲得を図るとともに、更新で魅力的な講演テーマ、講師の選定を行い、積極的に参加者の募集を行う。
	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	5	10,491	12,000 ×9,986	10,000	5	-	13,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止による事業中止に伴い、大きく減少した直近の実績を踏まえ、R1実績とほぼ同数の目標値を設定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト(R2)	中期経営計画(H29~R3)		R2目標設定の考え方(数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			R2目標	最終年度目標		
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1	0.9 0.92	↓0.80	10	0.9	0.9	長期安定を基本に効率的・効果的な資金運用に努めるが、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界経済の後退により、早期償還が発生していることから、目標から1千万円減の0.80億円の運用益を目指す。	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	3,680	3,670 [3,663]	3,660	5	-	-	総労働時間のさらなる縮減を目指す。	事務事業の効率化により、常勤職員(役員・管理職、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。

【凡例】

- ・☆はR2からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

修正前

〔6〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	0.92	0.85

マイナス（現状維持）目標の考え方

・財団は長期安定的な運営が可能となるよう、元本保証で金利が為替変動型の仕組債を資金運用で活用している。

・この仕組債は円と米ドル、豪ドルとの為替水準により変動し、R2年1月以降大きな為替変動が続いているものの、12月までは安定的な為替水準であったため、R元年度は前年度並みの約1億円の運用実績を見込んでいたが、豪ドル安が進みR元年度の運用益は0.92億円に減少した。

・本年1月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により世界経済を取り巻く環境は大きく変動しており、特に豪ドルの回復が期待できないため、R2年度の運用収入は大きく落ち込む恐れがあり、中期経営計画の目標値（0.9億円）から5百万円減の目標値とした。

修正後

〔6〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	0.92	0.80

マイナス（現状維持）目標の考え方

・財団は長期安定的な運営が可能となるよう、元本保証で金利が為替変動型の仕組債を資金運用で活用している。

・この仕組債は円と米ドル、豪ドルとの為替水準により変動し、R2年1月以降大きな為替変動が続いているものの、12月までは安定的な為替水準であったため、R元年度は前年度並みの約1億円の運用実績を見込んでいたが、豪ドル安が進みR元年度の運用益は0.92億円に減少した。

・本年1月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により世界経済を取り巻く環境は大きく変動しており、早期償還が発生していることから、中期経営計画の目標値（0.9億円）から1千万円減の0.80億円の運用益を目指す。